

夏の思い出つむぎプロジェクト in 京都 ～同級生との再会～



企画書

日程：8月17日（日）～ 8月22日（金）
対象：中高生約20名
参加費：3,000円、一部食費、小遣い負担
宿泊：KKR 京都くに荘、聞法会館
主催：つむぎプロジェクト実行委員会
（構成：さぼーと紡 NPO 法人和）
協力：浄土真宗本願寺派本願寺（西本願寺）
立命館宇治高等学校夢プロジェクト
立命館高等学校 みんなの手
桃山ピースアクション
ボランティア（学生4名・支援者2名他）

◎この事業は京都新聞福祉活動支援助成をうけております◎

はじめに

さぼーと紡は、放射線量が高い地域に暮らす子どもたちを何とかしたいという、ただそれだけの思いで立ち上がった避難ママ仲間です。

私たちができることは本当に限られておりますが、この理不尽な事実は、もはや全国どこにでも起こりうる出来事なので、伝え続けなければならない責任が、本当はあるのではないかと考えます。しかしながら、なかなか伝えられず、知ることができない人が大勢いることも事実です。

子どもたちをどうやって防護していくべきか、少しでも健康であるためにはどんな対策を取るべきか、そして子どもたちがみんな平等であるためにはどうしたらよいかを一緒に考え、意識する者同士がつながり解決していけるよう、伝える活動、呼び掛けなどを継続的に取り組んでおります。

今回はNPO 法人和と協力しながら、震災で離れてしまった同級生との再会を実現させ、この事業をもっと広く伝え、各地で企画してもらえるよう呼びかけていきたいと思っております。

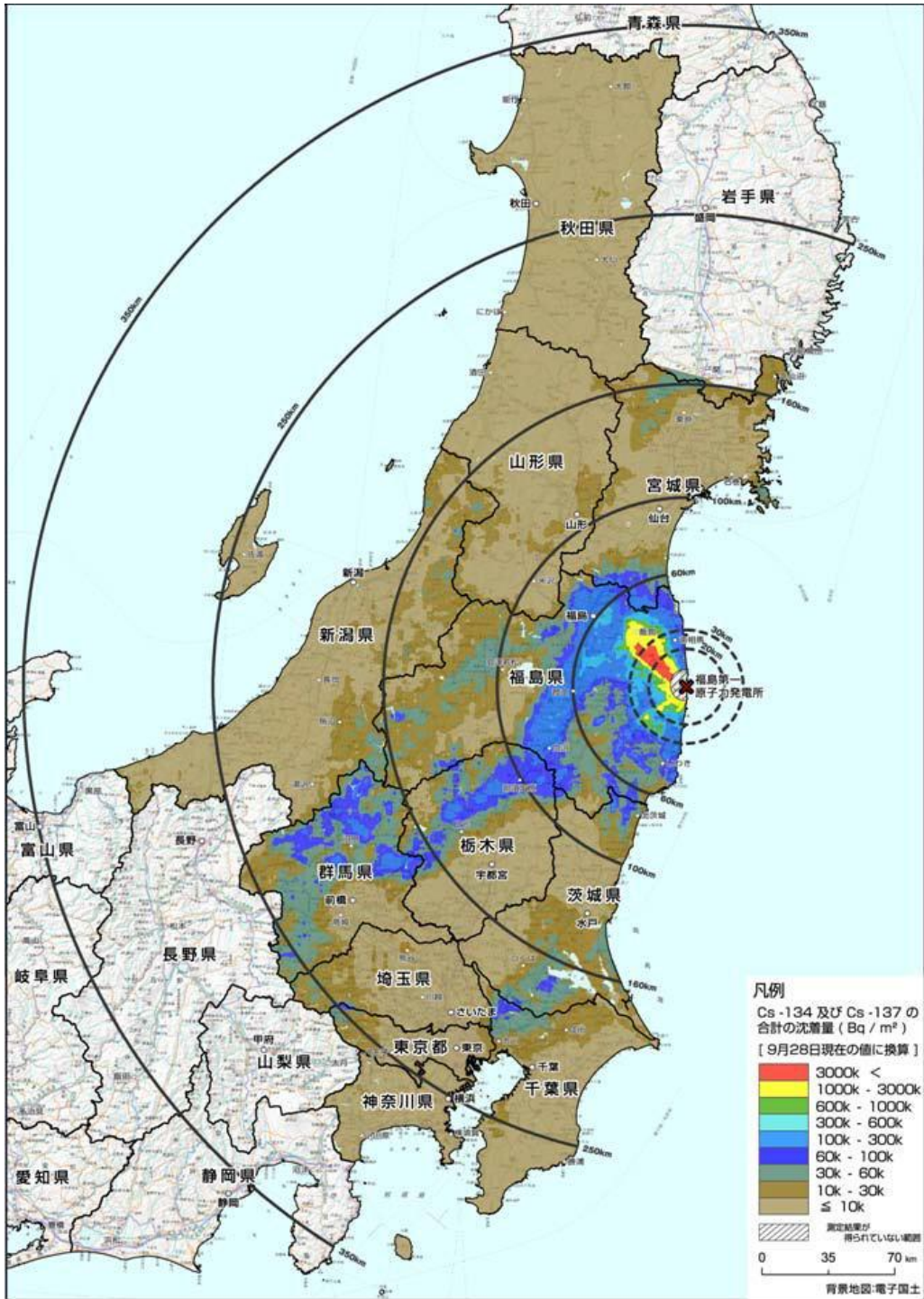
目的

中高生に向けた支援が少ないため、主にそこに焦点を絞り、被災地と京都の子どもたちを結びようなことも含めた交流企画を提案、今までそういった企画に参加できなかった子どもたちを出来る限り動かすことが目的です。

背景

2011年3月11日、東日本大震災の影響により東京電力福島第一原発事故が起こったことで、目に見えない放射性物質が広く拡散され、私達の日々の生活をも脅かす事態になろうとは、誰も予想していませんでした。

強制的に避難指示が出た地域は、円状に20km、30kmと、壁があるわけでもないのに線引きされ、町境、県境も線引きされましたが、放射性物質はその地域に留まる訳がなく、避難指示が出なかった地域はもちろん、福島県外や、山へ海へも広がりました。



この目に見えない「放射線」「放射性物質」と言われるものと毎日向き合わなければならない現状が、震災以降も未だにずっと続いており、今も放射線量が高い土地で踏ん張りながら生活をしています。

今まで気にしながら生活したこともなかったため、いつまでもそれに神経を向けていられるわけがなく、忘れてしまおうとしている人もいます。考えないよう、胸に留めている人もいます。考えないほうがいいという判断は、ある意味、防護の一つですが、せめて子どもだけでも守りたいという思いの大人達はたくさんいます。人が住み慣れた土地から動く決断は、そう簡単にできることではありません。不安を抱える人は、子ども達を思いっきり外で遊ばせることができないで苦しんでいます。

線量が高い地域の子どもは、今も当たり前前の権利を奪われていることは、なかなか報道でも取り上げられず、むしろ、時間の経過とともに風化し、無関心という空気に染まりつつあります。これは、直ちに影響がなくとも、今後影響があるかもしれないという状況下でありながら、何も知らない子ども達への無用な被曝を増加させてしまう大きな要因でもあります。こういったことを懸念する支援者が、子ども達に少しでも安心できる土地で思いっきり身体を動かしてほしいという取り組みが、各地でもたくさん行われています。

殆どの方が、こういった情報はもちろん、各県で受け入れてくれている事さえ知らず、情報を手に入れられる人だけが動いているのが現状です。学校、習い事、家族の反対、いろんな理由から動くことが難しい子どもたちはたくさんいます。情報を知らない大人と生活している子どもたちは、必然的に動くことはできません。皆平等なのに、あの子は行けて、この子は行けない、一人一人の親の責任に委ねられてしまっています。

動こうと決断できた人が動いているだけでは、子どもを出したくても出せないという親御さんとの温度差も生まれ分断ばかりが起きます。もっと子どもの立場に立った企画を増やし、今まで親の都合で出られなかった子どもたちも参加してほしいと願います。

たとえば、高校の部活動の合宿や遠征、小学校の子ども会の旅行、クラスの思い出作りなどに、企画を組み合わせしていく、一番大事なことは、いつも一緒に過ごしていたグループやメンバーと一緒に参加するという事に意味があります。

支援する側される側、分け隔てなく、大人の責任として、できる限り企画の段階からお互いが話し合っていけるよう、具体的に提案していき、同じ立場に立ち、東日本と西日本の子ども達が一緒に歩いていけるようマッチングさせることが、一番の目的です。

本事業の企画案と効果

震災から京都に避難しているスタッフの繋がりから子ども達の同級生に声を掛け、懐かしい仲間と再会し、京都での思い出を作り、これから先も東と西が繋がりが続けられるような交流を主に提供していく予定です。東北の子ども達と、京都の高校生や、大学生との交流、企業訪問、ワークショップ等を取り入れたプログラムにし、この取り組みをもっと社会に周知させ、行政や国の助けも得ながら、学校が率先して継続的なものに変えていただけることが希望です。

震災によって起こってしまった原発事故は未だに収束しておりませんが、これから未来に向けてどうしていけばいいのか、大人はもちろん子ども達も一緒に考えられる場を作り、復興はもちろん、明るい社会に結びつく可能性は十分にあります。

対象・参加費・移動方法

主に中高生の同級生再会を目指し、避難者が東北の繋がりある子ども達に呼びかけています。

参加費3,000円、一部食費、小遣い自己負担。

京都福島間の交通費、京都府内の移動費無料。引率者あり。

8月初旬		参加者への事前説明
8/17(日) 聞法会館 15名 男5 女10(大人2)		17日の支援バスを利用(バス乗車人数17名) 車中にて昼食、夜食を各自とる。聞法会館に宿泊 (支援バス…福島駅西口7:30発~京都駅20:00着)
18(月) くに荘 15名 男5 女10 (大人2)	6:00	朝のおつとめ(読経・法話)※希望者のみ
	7:00	起床・朝食・宿泊先移動(大きな荷物はこちらで移動)
	9:30	くに荘送迎バスで京都駅へ・各自自由行動(昼食各自)
	15:30	ハンディクラフトセンター集合、伝統工芸品手作り体験
	17:30	夕食(「アラシのキッチン」にてインド&ペルシャ料理)
	20:00	KKR京都くに荘着・チェックイン・入浴・自由時間
	23:00	点呼・消灯・就寝
19(火) くに荘 15名 男6(大人1) 女9(大人1)	7:00	起床・朝食
	9:00	立命館宇治高校集合・交流(企画中)~夕方まで
	12:00	昼食(立命館の方たちと一緒に)
	13:00	平等院見学(予定)
	19:00	夕食(くに荘にて)
	20:30	入浴、自由時間、23時点呼、消灯、就寝
20(水) 聞法会館 20名 男6 女14 (大人3)	7:00	起床・朝食・チェックアウト・宿泊施設移動(大きな荷物はこちらで移動、9:30発京都駅までの送迎バスあり)
	日中	それぞれの友達と一緒に京都観光・自由行動 (各グループ引率あり、食事は各自)
	15:00	西本願寺聞法会館着、チェックイン
	17:30	夕食(焼肉屋)
	20:30	入浴、自由時間、23時点呼、消灯、就寝
21(木) 聞法会館 17名 男6 女11 (大人2)	7:00	起床・朝食(バイキング)
	10:00	西本願寺企画
	昼	昼食(精進料理)
	13:00	東寺・弘法市
	17:30	夕食(最後の晩餐)
	19:00	おんらく市場、鈴木キヨシさんのワークショップ
	20:30	入浴、自由時間、23時点呼、就寝
22(金)	7:00	朝食(バイキング)、荷物準備
	9:30	チェックアウト、タクシーで京都駅移動
	10:00	京都駅内で自由行動・昼食(弁当準備します)
	12:30	京都駅発(新幹線乗車)
	17:00	福島駅着

22日帰省の新幹線 京都駅12:33発(ひかり520号)東京駅15:10着(乗換)
東京駅15:36発(やまびこ57号)福島駅17:17着